臨床検査科この一年

臨床検査科技師長　　伊藤　亮二

はじめに

平成20年度4月1日付けで平沼主任が係長，坂本技師が主任，伊藤係長が技師長にそれぞれ昇格した．

これにより生理検査部門は平沼係長と坂本主任，検体検査部門は伊藤技師長と加藤主任の担当となり当科を統括する体制としては，業務連絡および指示の周知を含めてバランスの良い配置になったと思われる．

検査補では前任者の退職に伴い，中岡が新たにわれわれ検査科のスタッフの一員として加わった．

診療報酬改定

平成20年は，2年ごとに行われる診療報酬改定の年であった．今回の改定では，医療全体では8年ぶりに技術料本体が0.35％の引き上げとなった．

臨床検査領域では「外来迅速検査管理加算」，「院内微生物検査実施料」等のプラスの見直しが行われたが，検査実施料で－0.9％（前回比），検体検査判断料で－2.2％（前回比）であった．

当科全体では，おおよそ2.0％減収の試算となった．

業務状況

血液検査部門では平成9年導入の血球分析装置の老朽化に伴い，更新大型機器としてXE-5000が導入された．XE-5000は高速処理，各種幼若血球細胞および破砕赤血球の検出，体液（脳脊髄液・胸水・腹水）の測定機能を有し，これらの機能は臨床各科に付加価値のあるデータを提供できると思われる．血球数算定件数は106％（前年比），白血球5分類算定件数は126％（前年比）であった．

病理検査部門では森技師が細胞検査士に認定され，吉田技師とともに細胞検査士2名で今後の病理検査に取り組む体制が整った．

生理検査部門では救急外来，ICU病棟，医局等の改築工事に伴い当科の生理検査室も一新した．これにより従来，技師が他部署に出向いて対応していたエコー，トレッドミル等の検査は新しい生理検査室に集約され，技師および患者さん等の動線が短縮されて業務の効率化が図られた．

平成20年はベッドサイド心エコー，頸動脈エコー，腎動脈エコー等の件数が大幅に増加した．今後の更なるエコー検査件数の増に期待する（表1）．

おわりに（次年度にむけて）

平成21年度はDPC導入，病院機能評価と大きなプロジェクトが控えており，当科においても内部および外部に向けて準備を進めていく．

DPCの開始により外来の検体数は増え，検査の迅速性が求められることは必至であると予想される．検査件数の増加で，病院の収益増に寄与したい．

診療部をはじめ他部署との連携を怠ることなく，これからの病院の体制にきちんと組み込まれた部門としての責任を果たしていきたい．

エコー実施件数（12月期までの累計）

	H20年度	H19年度	対前年比
エコー 腹部	534	521	102%
心エコー（UCG）	1,258	976	129%
ベッドサイド心エコー（UCG）	58	30	193%
経食エコー	56	40	140%
頸動脈エコー（ビビット）	111	108	103%
頸動脈エコー（アプリオ）	144	28	514%
甲状腺エコー	20	23	87%
DM頸部	162	230	70%
腎動脈エコー	122	21	581%
血管エコー	27	32	84%

表1